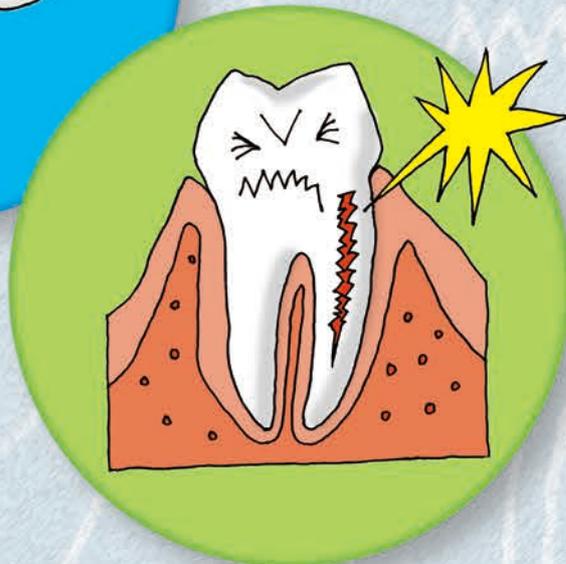


歯が割れても あきらめないで!

—「歯根破折」で歯を失いたくないと思ったら読む本—

眞坂 信夫 著
眞坂こづえ



医歯薬出版株式会社

1

歯が割れてもあきらめないで！

硬いものを咬んだりしたとき、欠けるように割れたり、ひどい場合には真二つに割れてしまうこともあります。

割れた部分のパカパカしていたり、完全に分離してしまっている状態だと、あきらめてしまう方も多いと思いますが、これも一種のけが。割れて間もない時期に治療できれば、しっかり消毒して接着することで、延命がはかれます。

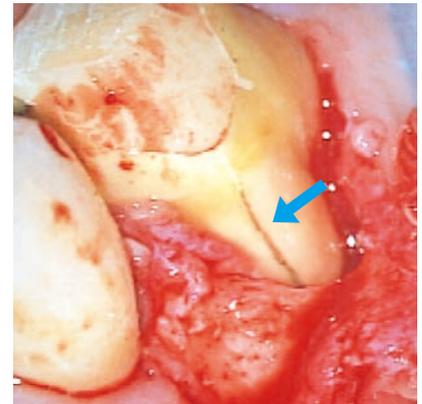
接着治療により、歯が割れてから20年以上、使うことができた例もあります。



上の前歯が割れてしまいました
→現在まで5年もっています



下の大白歯の内部にひびが入っています
→現在まで6年もっています



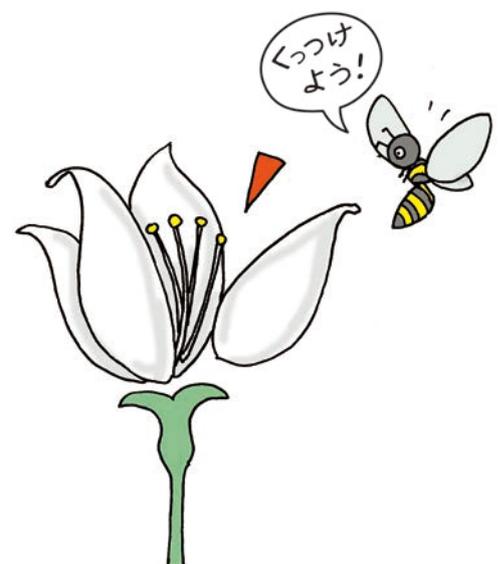
下の大白歯の外側にひびが見つかりました
→現在まで11年もっています



上の小臼歯が割れてしまいました
→現在まで6年もっています



左の歯と同じようですが、根の先まで真二つに割れました
→それでも、治療して9年半使うことができました



ところが、いつ割れたか気づかず、じわじわひびが拡大して歯根の表面まで達すると、その部分の歯と骨をつないでいる組織（歯根膜）が失われ、やがて歯を支える骨にも炎症が及びます。このタイプの割れ方は危険です。

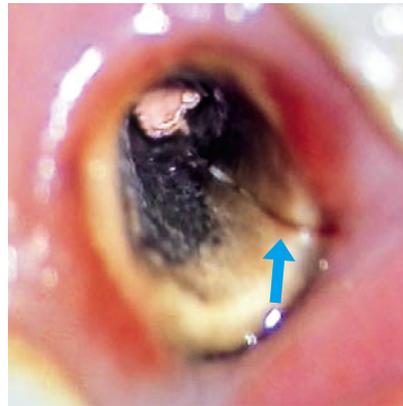
こうした割れ方は、神経を取った歯に起こりやすく、腫れたり、骨の支えがなくなって動揺がはじまって歯科を受診し、割れていることがわかることが多いのです。

歯肉が腫れたり、ちょっと動揺が気になって軽い気持ちで来院したのに、「歯を抜きます」と言われたらショックですよ。

私たち歯科医師も、なんとか抜かないですむようにと、いろいろ方法を考え、現在は多くの歯を残せるようになってきました。



下の歯の歯肉が腫れて受診しました



人工の被せもの（クラウン）を外してみると、歯が割れているための腫れであることがわかりました



割れているところの骨の破壊が進んでいます。割れてから時間が経っていることがわかります



いったん歯を抜いて、汚れを取り除いてから、割れたところを接着処置しました



処置した歯をもとの位置に戻して固定します



きれいに修復して、問題なく使えるようになりました

2

こんなふうに治療します

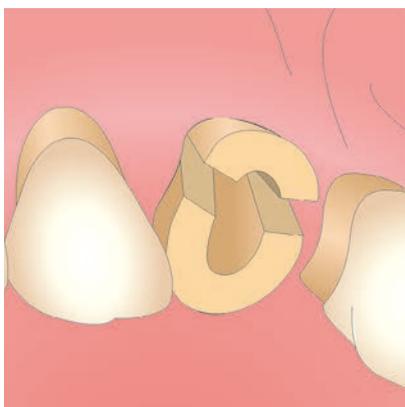
下の図のように割れてしまったときには、たぶんど自身でも「割れた」と気づくことができると思います。

この例のように比較的浅い位置で割れていて、すぐ処置できれば、「ダメかな」と思うような状態でも助けることができ、その後の経過もよい場合が多いのです。

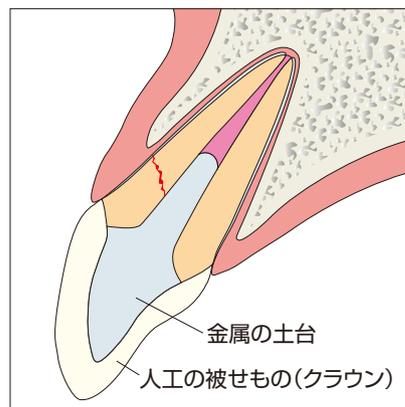
口の中には、たくさんの細菌がいます。割れた部分の汚染と炎症が進まないうちに、早く受診してください！



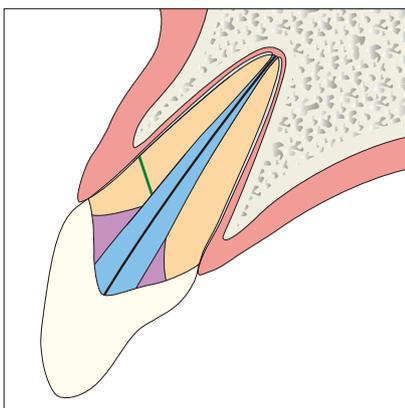
上の前歯が割れてしまいました



割れたところが動くので、すぐ気づいて受診されました



割れた位置が浅く、骨の位置と同じくらいのところでの破折でした



割れたところの汚れを取り、接着治療をしました



きれいに治療ができれば、左の前歯も気になって、2本を新しい被せもの(クラウン)にしました

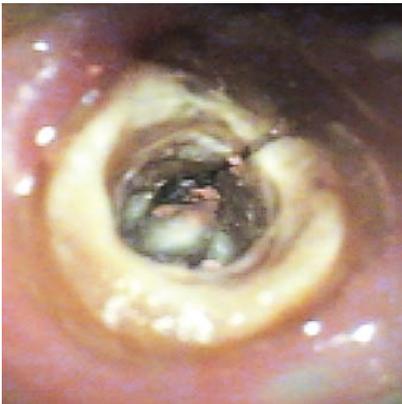


一方、細かなひびが歯の内部から歯根の外側まで進んで、歯と骨をつなぐ歯根膜を壊すタイプの割れ方をしている場合は、歯根の内側から接着しただけではよい結果が得られないことが多いのです。

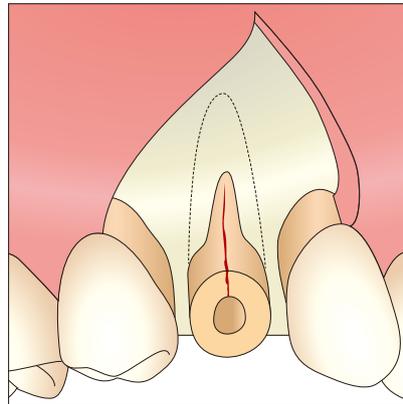
そんなときには、まず歯根の内側から治療し、後日、歯肉を開いて、歯根の外側のひびが入って汚染している部分を削り取り、すき間を接着材で封鎖します。骨の破壊があまり進んでいなければ、治療結果は良好です。

この治療法ができるのは、割れた部分が歯の外側（頬や唇の側）にある場合に限られます。

歯列の内側（舌に接している側）や、歯と歯の間のひびは、歯肉を開いて処置することができないので、次ページの方法で治療します。



上の前歯が割れて、歯肉が腫れて来院されました



歯根の先のほうまで割れていました。まず、歯根の内側からの接着処置をします



次の来院時に、歯肉を開いて、歯根の外側のひび割れ部分の処置をします



歯肉を開いて処置してから4週間後の状態。ひび割れも埋められて、きれいな状態になりました



クラウンを装着して、5年後の状態です。問題なく使えています



吸収していた骨も改善しています